

北海道ラグビーの日2025報告書

(一財)北海道ラグビーフットボール協会/HRFU

ジャパンラグビーリーグワン公式戦 東芝プレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート 2025.03.30 @大和ハウス プレミストドーム（札幌ドーム）

インフォマートプレゼンツ 2025 招待試 早稲田大学 vs 慶応義塾 2025.05.25 @月寒ラグビー場

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025 グランドファイナル札幌大会 2025.08.17 @大和ハウス プレミストドーム（札幌ドーム）

関東大学対抗戦グループ公式戦 早稲田大学 vs 日本体育大 2025.09.13 @月寒ラグビー場

全国高校選手権大会北海道予選 南北北海道高校大会決勝 2025.09.28 @大和ハウス プレミストドーム（札幌ドーム）

全国大学ラグビーフットボール選手権大会予選 北日本大学交流戦 2025.10.26 @月寒ラグビー場

総括

Concept & Mission

北海道におけるラグビーの普及の度合いは観客数に比例すると思われる。

競技としての魅力は何か？地域社会に貢献できることは何か？

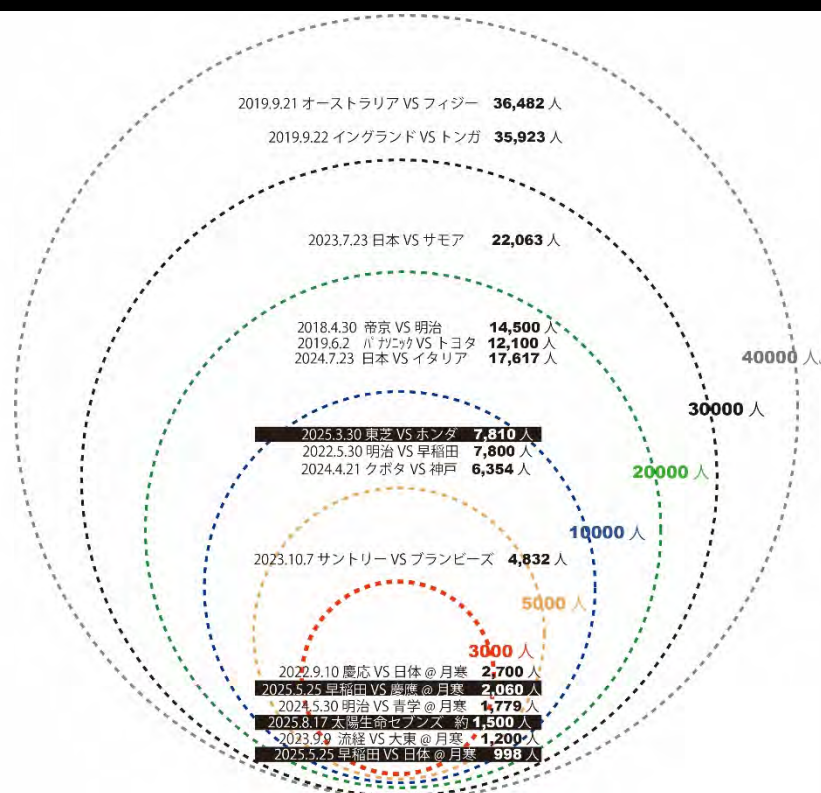
それらを考えながら集客の最大化を図り、普及につなげる。

「北海道ラグビーの日」はその試金石である。

多くの皆様に支えられて終えた4年目、

可能性と課題で埋め尽くされた2025年度報告書は、

今後の貴重な「道しるべ」となるだろう。



「北海道ラグビーの日」2022-2024 年度サポーター



なの花薬局

kanamoto

佐藤木材工業株式会社

三菱地所

万世閣ホテルズ

北海道新聞社

HONMA KAITAI

三共電気工業株式会社

クワザワ

乾杯を
もっとおいしく。

WELLNET

WellVets

サザエ

周遊あさひ本舗

大海上
道雪川

K
KINOTOYA

株式会社 丸い佐藤海産

組職コンサルの会

北海道銀行

KITAGAS

北洋銀行

ANA

丸い佐藤海産

組職コンサルの会

CondeHouse Sapporo

株式会社ケルプ研究所

萩原建設工業株式会社

しもで
メンタルクリニック

Distillery Shabon Blue

TOYO INDIAN

グストハウス
THE STAY

Commons Gun

Collect

p.b.V

JRTOWER

JA新の

海森計画

株式会社 バルテクノ

東京海上日動

SAPPORO DOME

FOUND

JA新の

NORAWA & CO. LTD.

Nihon Field

えんわいし

あるがハート

JAPAN AIRLINES

ICHIE HOKKAIDO

SUNTORY

Kiribata

STV

HBC

ユメの、チャラ

6 HTB

ニッセンレンエスコート

ほうしん大島駅
はり良登井

北海道トンボ株式会社

小林牧場

SOMPO

苦東アーム

ICHIDO

三菱商事

MEM

みんなの健活

Tomatoh farm

Sakaguchi Farm

一般社団法人札幌観光協会

北薬クラブ

江別 循環 器

龍越 くら菊

株式会社 丸井増田本店

丸井増田本店

Try & Smile
花 賞

株式会社 スタラ製菓サービス

Tribute

株式会社アドバンス・ハート

Objet

丸井増田本店

計 79 社 (順不同)

「北海道ラグビーの日」2025 年度サポーター



なの花薬局

kanamoto

Hokkaido
Airports

HONMA KAITAI

三共電気工業株式会社

佐藤木材工業株式会社

万世閣ホテルズ

クワザワ

北海道新聞社

SAPPORO
Factory

JAL

株式会社 エーエス
AS Co., Ltd.

CLEANRIVER

デリカ北海道販売株式会社

医療法人社団 響

ときめく心と未来を紡ぐ
北海道トンボ株式会社

北海道銀行

北洋銀行

株式会社 えんわいし

しもで
メンタルクリニック

東京海上日動

株式会社ケルプ研究所

萩原建設工業株式会社

Commons Gun

p.b.V

株式会社 バルテクノ

TN

KITAGAS

STV

HBC

ユメの、チャラ

TOGA LIFE SCHOOL

CondeHouse Sapporo

Collect

NORAWA & CO. LTD.

Nihon Field

北薬クラブ

Distillery Shabon Blue

炭火焼肉
ジェンキヤン

札幌商工会議所

一般社団法人札幌観光協会

タケのガンギ

こんにち和牛
HELLO WAGYU

青年農業協力隊

株式会社 丸い佐藤海産

グストハウス
THE STAY

未来へのパス
Project

小林牧場

周遊あさひ本舗

サザエ

大海上
道雪川

TOYO INDIAN

JA新の

苦東アーム

トヨニシファーム

Sakaguchi Farm

ICHIE HOKKAIDO

MILK LAND

KINOTOYA

「北海道ラグビーの日」が目指すものとその課題



『北海道ラグビーの日』宣言

- 一つ、ラグビーのもつ誇らしい価値とスポーツのもつ平和をめざす力を、一層、強いものにします。
- 一つ、ワールドカップの熱気を、もう一度、札幌ドームと札幌の街に取りもどします。
- 一つ、未来をになう北海道のラグビーボーイズ&ガールズに、生涯、忘れない思い出をつくります。

「北海道ラグビーの日」で日本代表戦やジャパンラグビーリーグワン(以下 JRL0)の試合を見ると、しみじみ「おー凄い」と感じることができる。人間離れしたトップアスリートの、速く、高く、力強いフィジカルパフォーマンスに、人間の本能が刺激されて、快感につながるような心地よい気持ちになれる。

さらに、そんな身体をはったプレーが、自分を犠牲にして、チームメイトのために発揮されることに、心の底から深い感動を覚える。

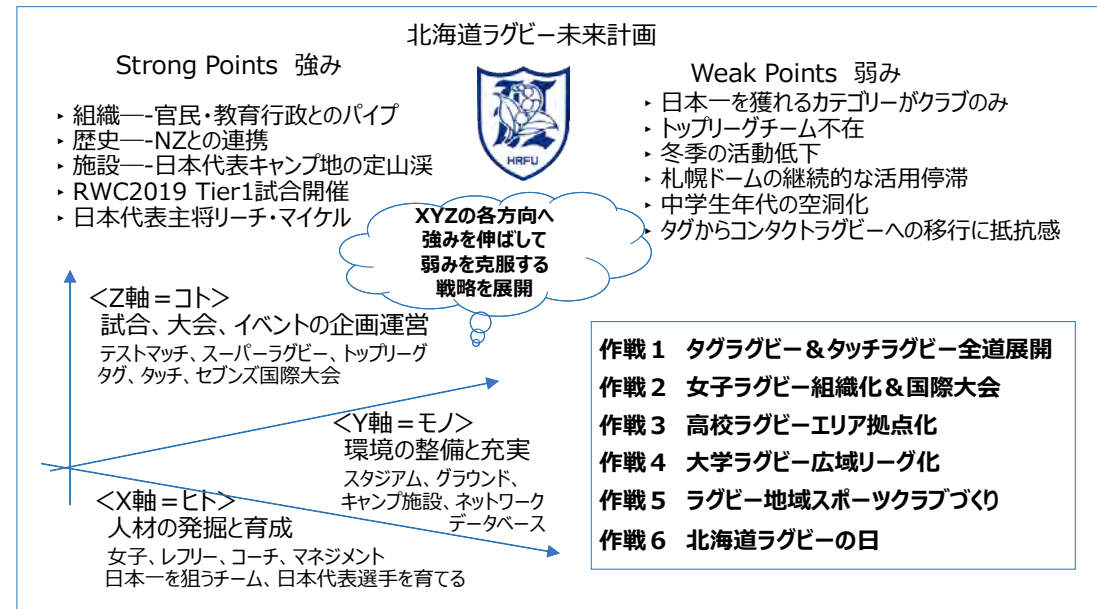
北海道ラグビー未来計画を元にして、「北海道ラグビーの日」に2022年から取り組んできた。ビッグゲームの素晴らしさが、うれしい雰囲気の中で発揮され、たいへん好評を得ている。

しかし、経費が大きくなって、資金不足の低空飛行となっている。

そこで、「北海道ラグビーの日」では、

- 地道に地域へコミットできているか
- ラグビーの価値を力強く伝えることができているか
- 未来を担う人材への投資が形になっているか
- 本当の多様性を表現できているか

を確かめながら、それらを課題として捉えて、これから先も正面から向き合い、「北海道ラグビーの日」の目指すものを、もう一回、ゼロ地点より捉え直したい。



「北海道ラグビーの日・北海道ラグビー100周年」2025事業データ

JRLO 公式戦 東芝ブレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

日 時：2025.03.30

開 場：大和ハウス プレミストドーム（札幌ドーム）

入場者：7,810 人

収 支：－880 千円

インフォマートプレゼンツ招待試 早稲田大学 vs 慶応義塾大学

日 時：2025.05.25

開 場：月寒ラグビー場

入場者：2,060 人

収 支：+25 千円

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025 グランドファイナル札幌大会

日 時：2025.08.17

開 場：大和ハウス プレミストドーム（札幌ドーム）

入場者：約 1500 人 無料試合

関東大学対抗戦グループ公式戦 早稲田大学 vs 日本体育大学

日 時：2025.09.13

開 場：月寒ラグビー場

入場者：998 人

収 支：+690 千円

全国高校選手権大会北海道予選 南北北海道大会決勝戦

日 時：2025.09.28

開 場：大和ハウス プレミストドーム（札幌ドーム）

入場者：約 2,000～3,000 人 無料試合

全国大学ラグビーフットボール選手権大会予選 北日本大学交流戦

日 時：2025.10.26

開 場：月寒ラグビー場

入場者：約 1,000 人 無料試合

「北海道ラグビーの日」は、未来へのインパクトとなるビッグゲームを開催して、若者に忘れ得ぬ思い出と夢を与えるとともに、新たなファンを獲得して、ラグビーの魅力を北海道に広めて、北の大地にラグビー精神を根付かせることを目的としている。

ビッグゲームのカテゴリーは、第1に、日本代表戦や JRLO の試合を大和ハウス プレミストドームで開催して、1 万人から 2 万人の観客を呼ぶことにあり、世界のトップレベルの試合で、大きなスタンドも素晴らしく盛り上がる。

第2に、月寒ラグビー場での関東大学ラグビーの公式戦と招待試合である。こちらは2千人以上の観客が集まる満杯のスタジアムを目指して盛り上げている。

2022 年からの4年間の開催概要を振り返ると、2 回目となる日本代表戦は2万人に届かないが、JRLO は3 回目で8千人近くまで観客数が伸びた。

ただし、JRLO では収益のほとんどを試合開催の権利委譲料としてチームに支払うため、事業収支は苦しく、今後の制度改良が望まれる。

一方で、大学の試合は2千人を超える試合が少なく観客動員は下降傾向にあるが、収益率は維持できていて、チームも札幌に来ることを歓迎してくれている。

各試合では、前座で小中学生のラグビー交流や女子ラグビーを展開し、「未来へのパスプロジェクト」と銘打った道産のフードサービスを行ってきた。車いすラグビーやブラインドラグビーの紹介、道東のダンスチーム約100名も踊りに来てくれて、応援してくれる関係団体が増えていくことが大きな力となった。

さらに、限られた広報予算ながら、札幌市の各種媒体に広告を展開し、地下歩道の「リーチマイケル上陸」壁画では広告協会で優秀賞をもらった。

その他に、南北北海道高校決勝戦2試合の開催と、新しいカテゴリーとして、道内大学上位が東北の大学と競い合う北日本大学交流戦と、女子セブンズの国内トップを争う太陽生命ウィメンズセブンズシリーズグランドファイナルを加えて、引き続きどのように盛り上げていけるかに挑戦して取り組んでいる。

マッチレポート

Concept & Mission

ラグビーは試合結果だけではなく随所に見どころが詰まっている。

また試合の後はアフターマッチファンクションという文化がある。

勝負のポイントと観戦文化という視点から今年の試合を振り返る。



東芝ブレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

昨年に引き続き JRLO 公式戦を開催、昨年の JRLO チャンピオン「東芝ブレイブルーパス東京」を迎えてのホームゲームを実施。対戦相手は近年強化が充実している「三重ホンダヒート」との激突になった。この試合は、昨年に引き続きマッチデースポンサーとして「株式会社インフォマート」様にこの試合を盛り上げて頂いた。2年連続で多大なる支援を頂いたことに、HRFU 一同、感謝の念に堪えない。

3月30日開催ということで、屋外でのイベントには制限があったが、ドーム内のスペースを利用したイベントを実施。東芝ブレイブルーパス東京のホームゲームとして、札幌山の手高校出身のリーチマイケル選手他の記念 T シャツなどのコラボ企画を展開した。また、ホスピタリティシートでの元日本代表で東芝 OB の大野選手とのトークショー開催や、新たな試みとして、グランド脇で観戦できる「ピッチシート」を48席用意してチケット販売時に即完売となった。観戦の新たなスタイルをこれからも展開してラグビーの魅力をラグビーファンに伝わる施策を展開していく。

試合は、昨年のチャンピオンチームとして東芝ブレイブルーパス東京がセットプレーと接点での攻防で勝ち、イーブンボールへの働きかけも早く、後半に突き放すことで勝利。札幌山の手高校出身の主将のリーチマイケル選手、リザーブで途中から出場した伊藤鐘平は地元での勝利をプレゼントした。リーチ選手は日本代表として2度、札幌で試合をしているが、ともに敗退しており非常に喜んでいた。

両チームのファンも道外より多く観戦を頂き、非常に満足されて帰られた様子で「ぜひ来年も札幌で試合を見たい」という声が多く届いた。4月は北海道の観光シーズンとしては閑散期であることから観光振興にも貢献できたと考える。ゲームの演出内容や運営の中で常に「おもてなしの精神」を考え、両チームのファンに喜んで帰ってもらいたいと思う。



早稲田大学 vs 慶應義塾大学

「春の早慶戦」を開催。過去、月寒ラグビー場で開催以来の伝統校同志の戦い。早稲田大学は2022年の春の早明戦、慶應義塾大学も2022年の対抗戦開幕試合以来の北海道での試合となった。あいにくの雨が降る中で、2,000人を超えるファンが試合観戦をいただいた。

試合は、早稲田は日本代表の矢崎選手やキーマン服部選手が不在だったが、雨の中にもかかわらず、ミスも少なく早稲田は試合開始直後からボールを動かす展開で3連続トライを取り、主導権を常に持ちながら試合をリードしていた。慶應も1年生選手が奮闘をして、コンタクトなどで前半の途中から早稲田と互角に戦っていた。結果は早稲田大学の勝利。昨年、大学選手権準優勝の好調さを続けており、大田尾監督5年目の充実した内容だったかと思う。

ここ数年は7月に日本代表戦が開催されていたこともあり、春の大学の招待試合は、実施はされていなかったが、大学ラグビーのファンは北海道でも多くいるので、ファンのためにも応えていきたい。

また、2026年からワールドラグビーが新しい世界大会「ネーションズチャンピオンシップ」の開催概要を決定。2026年・2028年・2030年の2年ごとに開催。日本は参加が決定しており、この年度はネーションズチャンピオンシップを北海道で開催することや、日本代表強化試合開催を要望していく。それ以外の年度は、大学の春の招待試合などを検討していきたい。

2027年は「春の早明戦」を6月にプレミストドームで開催を決定。前回は7,000人を超える観客に観戦頂いたので、早期に開催PRを行い、たくさんの北海道ラグビーファンに喜んでもらいたい。



太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025
グラウンドファイナル札幌大会 北海道バーバリアンズディアナ

女子セブンズ日本代表、通称サクラセブンズは、2024 パリ五輪で 9 位、2025 ワールドセブンズシリーズで 7 位と世界で活躍している。その進化を支えて育んできたのが太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ(WSS)という全国トップ 12 チームのシリーズ大会である。

2025 シリーズは 6 月から 8 月まで 3 大会を酷暑の熊谷、北九州、花園で開催したが、ようやくファイナル大会で屋内ベストコンディションの大和ハウス プレミストドームでの開催が実現した。

8 月 17 日(日)、札幌に集結した入替戦出場 4 チームも含めた全国強豪 16 チームには、日本代表のみならず NZ や南アフリカといった世界の強豪国の代表選手たちも参加。8 チームの決勝トーナメントと入替戦の計 20 試合では、どのゲームも熱戦続きの手に汗握る展開となった。

北海道バーバリアンズディアナが激闘を繰り広げる中、高校生女子プレーヤーたちも会場の準備や運営に率先参加。北海道ラグビーの総力をあげて日本の女子ラグビーを熱烈応援したグラウンドファイナルだった。

「ながとブルーエンジェルス」が決勝戦延長の末に「PEARLS」に競り勝って優勝。

総合順位は次の通りとなった。

1 位 なかとブルーエンジェルス

2 位 PEARLS

3 位 YOKOHAMA TKM

4 位 ナナイロプリズム福岡

5 位 日本体育大学ラグビー部女子

6 位 東京山九フェニックス

7 位 北海道バーバリアンズディアナ

8 位 自衛隊体育学校 PTS

<入替戦残留 4>

横河武蔵野 Artemi-Stars

ARUKAS QUEEN KUMAGAYA

追手門学院女子ラグビー部

チャレンジチーム*

<チャレンジャー 4 チーム>

日本経済大学女子ラグビー部

BRAVE LOUVE

早稲田大学ラグビー蹴球部女子

アザレア・セブン

*チャレンジチームは、日本代表ユースアカデミーの選手で、

大会ごとに構成される特別チーム。



早稲田大学 vs 日本体育大学

関東大学対抗戦の開幕ゲームである。前年度大学選手権 準優勝の早稲田大学が春の早慶戦に続いて登場。2022 年の開幕戦を月寒ラグビー場で行った日本体育大学を迎え開催した。双方ともに充実した夏合宿を実施した内容がゲームに出ていた。前半は日本体育大学がFW戦で検討。早稲田の早いアタックを個々のタックルで応戦できて 21 対 0 で折り返したが、後半は地力で勝る早稲田大学が突き放し、59 対 7 で早稲田大学が対抗戦の初戦を勝利した。

試合会場の月寒ラグビー場には 1,000 人を超えるファンが来場し、根強い大学ラグビーファンや両大学の OB/OG の皆さんなど、たくさん方に応援に来て頂いた。

開幕戦は 9 月第 1 週目が想定され、関東周辺では「夏」の気候であり、選手の負担を考えると涼しい北海道で試合することが良いかと考えており、毎年9月開幕戦については対抗戦かリーグ戦どちらかの試合を実施したいと思う。

南北北海道高校大会決勝戦

一昨年、高校大会の決勝を「プレミストドームで決勝戦を開催」ということを提案し実現させた。ただ去年は、ドームのスケジュールが合わず、月寒ラグビー場での開催となったが、今年度は再びドームで開催することが出来た。

準決勝までは、今年は北北海道が当番校であったので北見での開催となった。南北の決勝は、南大会は去年のチャンピオン札幌山の手と、選抜大会、7s 全国大会に出場をして春から経験を積んできた立命館慶祥との札幌決戦となった。

前半からワイドにアタックする立命館が連続3トライ。山の手もFW戦で少しずつ優位に立ち、2トライを返し19対14で折り返す。

後半もカウンターから最初に立命館が先制。その後は攻守の交代が続き、後半22分にペナルティからクイックでアタック。最後は左スミにトライをして、33対14で立命館慶祥が優勝。3大会ぶり2回目の花園出場となった。花園では、ボールを動かし立命館らしい戦いを期待したい。

北大会は、去年のチャンピオン遠軽に、準決勝まで少ない人数ながら勝ち上がってきた中標津高校との決戦になった。キックオフから自信に満ちた遠軽がボールを動かし開始1分で先制トライ。遠軽のキーマン N08 吉田選手を中心に着実にスコアを積上げる。一方の中標津も佐藤主将を中心に1年間積みあげてきたゲームを展開。カウンターからペナルティをもらいクイックで佐藤主将がトライ。前半を35対5で折り返す。後半は遠軽の一方的な戦いとなり84対5でノーサイド。遠軽高校が3大会連続13回目の出場となった。

南大会は準決勝で立命館慶祥と接戦を演じた函館ラ・サールと3強の時代が続くと思われる。北北海道は遠軽が地域と一体となった充実した活動が出来ており、チーム作りも含めて他校をかなりリードしている。

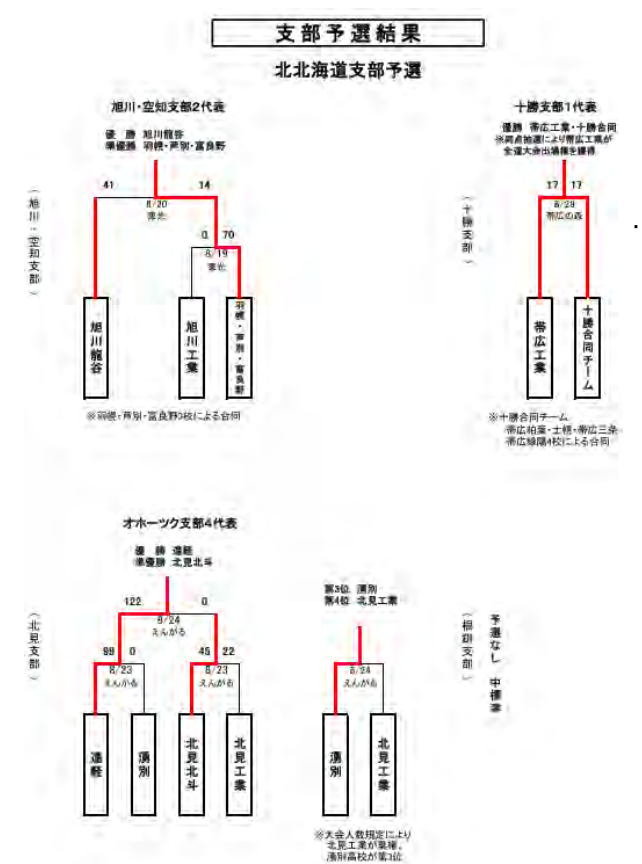
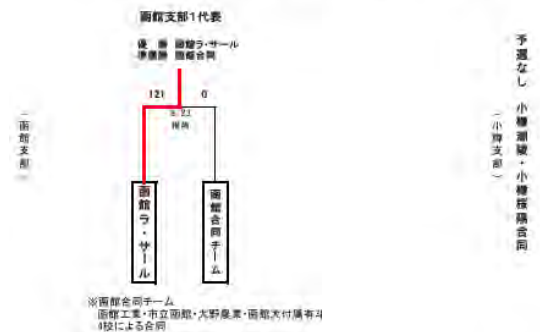
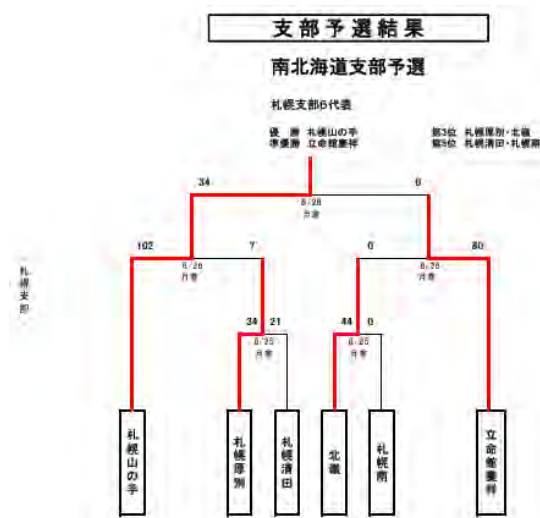
各地区でのスクールの活動などから高校での活動に繋がるように高校の指導者の熱意と指導力が望まれる。



北海道支部予選決勝 遠軽高校 VS 中標津高校



北海道支部予選決勝 立命館慶祥高校 VS 札幌山の手高校





北日本交流戦パンフレット



北海道大学 VS 東北学院大学@月寒G



札幌大学 VS 八戸学院大学@月寒G

北日本大学交流戦

第1節は札幌月寒ラグビー場で行われた。結果は以下の通りである。

札幌大学 5-43 八戸学院大学

F W戦で優位に立った八戸学院が終始試合を優位に運んだ。札幌大学も BK が積極的に仕掛けたがセットプレーで圧力を受け、点差がついてしまった。

北海道大学 51-0 東北学院大学

自陣からでもボールを保持する選択をした北大がタックルやスクラムにおいても優勢に立ち大差がついた。

試合当日は親子ラグビー体験、女子セブンスゲーム、チアダンスなどのイベントがあり、例年に比べて早朝から多くのファンがラグビー場に足を運んだ。

仙台で行われた第2節の結果は下の通りである。

1位の八戸学院が東北・北海道を代表して全国大学ラグビーフットボール選手権に進み、2位の北大が北海道地区の代表として全国地区対抗ラグビーフットボール選手権に出場することになった。

北海道大学 14-15 八戸学院大学

札幌大学 29-57 東北学院大学



親子体験会には多くの参加があった。

運営レポート

Concept & Mission

ラグビーの試合を行うための組織体制は準備を含め多岐に渡り、多くの人員が関わる。

選手はもちろん、サポーターファーストの運営のためには、

各パートでのチームワークが重要である。



東芝ブレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート
当日朝の運営会議



早稲田大学 VS 慶応義塾大学 当日朝の運営会議

東芝ブレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

3月30日 大和ハウス プレミストドーム開催 昨年度に続く JRL0 開催だった。所管権の委譲を初めて受け、HRFU が運営した大会となった。競技運営は昨年度の反省からマッチマネージャー(以下 MM)と MM 補佐を配置することでスムーズに進行できた。しかし、HRFU が所管権を持ったことで、プレミストドームだけでなく JRL0 と両クラブとの連絡・調整もすることとなり混乱することもあった。

特に「大会運営」と「競技運営」に跨る部分、「要員確保」「要員配置」や「ドームとの折衝」などの作業負担が増した。この跨る総務的な部分(ベニューマネージャーの補佐)を担う要員の配置が今後必要である。AD パスの確認・発行や弁当の発注、駐車証の発行などの業務のほか、各担当への役割や業務内容の連絡・徹底も担うことになる。当日朝、照会や問い合わせが MM や MM 補佐に多くあったことは、配置が必要 という証左である。「競技運営」も年に1回の開催であり、JRL0 のシステムを使う記録等は熟練度が低く、緊張を強いられた。抜け漏れ防止のために記録の補助者(スタッツの集計など)の配置も必須である。場内放送や ピッチと放送席の連携などはスムーズであった。

早稲田大学 vs 慶応義塾大学 (HRFU 招待試合・彬子女王殿下御成試合)

5月25日 月寒ラグビー場開催 雨天・低温という天候の中の開催であった。御成試合ということもあり、テレビカメラを貴賓室屋根に設置できず、メイン中央席の中央部分に配置した。撮影の死角を小さくするためチームテントの配置にも苦慮した。観客が少なかったこともあり、観客からの苦情などはなかった。今回特に苦労したのは、警備体制である。北海道警察本部にアドバイスをもらい、「手荷物検査」「諸室導線の確保」「警備員・スタッフ配置」等を進めた。社会人クラブのメンバーの協力が大変助かった。当日は「スクール対抗戦」や「ブラインドラグビー」を前座で行った。ブラインドラグビーは谷口真由美氏の競技説明と合わせて進めたこともあって盛り上がった。「会場運営」では、どの大会でも課題となるのが「AD 管理」である。前座のレフリーやサポート要員は、パスがあるためピッチレベルに残り、試合観戦を行っている。月寒の場合は通路が狭いこともあり、導線確保の邪魔になるなど、観客席からの見栄えもよろしくない。スタンドにスタッフ用の観戦エリアを確保するなどの対策が今後望まれる。この日のような天気の場合、ゲスト用にベンチコートは必須と感じた。選手もアイスバスを使わず湯 船を求めている。おかげで氷が大量に余ってしまった。また、雨のため選手にはテントではなくダッグアウト(スタンド下通路)での待機を認めたが、声の反響が大きかった。両チームとも前日入りしたが、早稲田大学は「東京で練習して夕方札幌入り」というスケジュールであったため、月寒ラグビー場での荷物整理が19時開始と月寒体育館職員に負荷をかけてしまった。スタッフのみ別便で早めにということ希望したいが、費用の問題もあり妙案を望みたい。



太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025
グラウンドファイナル札幌大会
屋外イベントの撤収手伝う山の手高校ラグビー部



早稲田大学 VS 日本体育大学
入場直前のダッグアウトの様子

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025

グラウンドファイナル札幌大会

8月17日大和ハウスプレミストドーム開催。JRFU主催の大会で、大会スケジュールも管理されていたので、HRFUはグラウンド周りの担架隊やボールボーイなどの役務を担当した。この日も天候に恵まれなかったこともあり、観客が少なく、集客のために行った札幌市主催の「タグラグビー親子体験教室」も効果を生まなかった。集客のための新たな取り組みが必要と思った。「競技運営」では、試合数が多く、回転も速いセブンズ大会のため、記録員2名体制は余裕がなく厳しい状況におかれた。交代要員の用意が必要であった。

早稲田大学 vs 日本体育大学

9月13日月寒ラグビー場開催。この試合も雨天・低温という天候の中で行われた。試合は関東大学ラグビー対抗戦の公式戦であったので、大会運営の流れもレギュレーションも関東ラグビーフットボール協会の運営マニュアルに沿って進めた。ただし、月寒ラグビー場、実施イベント、対戦カードなどによるアレンジは必要であった。5月の試合でもコメントしたが、雨天低温対策は重要である。ゲスト用のベンチコート、温水シャワーと浴槽などが必須である。また、テントの設置(風対策)にも注意を払う必要があった。ロッカールームが狭いこと、ピッチまでの動線も細いため、エアロバイクなど用具のダッグアウトへの持ち込みは不可とした。また備品の前日配置を認めたが、屋外であり盗難対策上問題となりえた。市街地にある競技場のため「駐車場 駐車証」が毎回の課題である。今回はJ-sportsの中継のため、中継車・資材車・人員車の3台分の確保が必要となり、配置に工夫が必要となった。

運営要員は「社会人クラブ」「大学生」「高校生」からサポート要員を集めた。高校はローテーションができているが、社会人クラブからのサポートは毎回のメンバーがほぼ同じになっている。コロナ以降この傾向が顕著であり、広く協力を求められる体制づくりが必要である。チケット販売時に、場内動線を尋ねられることが多くあったが案内図などがなく、説明に苦慮していた。今回、メインスタンドとバックスタンドの席の配置、場内動線図を用意し掲示した。試合記録は「記録用紙」を使用しているため簡便で分かり易いが、「抜け漏れチェック」が必須である。今回も記録を提出した後に発覚し、各所に電話連絡による確認を行うなどの対応が生じた。また、取材記者からも記録を求められるため、対応策の検討が必要と思う。関東大学ラグビー対抗戦・リーグ戦の試合は、ニュースリリースが全体のゲーム日程の確定に左右されているため、開幕節のこの試合は毎回チラシやポスターの配布がギリギリとなってしまう。この点の改善も必要と思う。

南北北海道高校大会決勝戦

9月28日大和ハウスプレミストドーム開催。運営主体は高体連ラグビー専門部で、今回は北見工業高校が当番校であった。1・2回戦は北見市モイワスポーツワールド、決勝戦を「北海道ラグビーの日」の行事として大和ハウス プレミストドームで開催した。「大会運営」は北見工業校が当番校であったが、距離的問題もあり、決勝戦の運営は札幌近郊の札幌南高校(ボールボーイ・担架隊)や札幌厚別高校(記録)がその役割を担った。決勝戦の役割や進行スケジュールは、前回2023年の大会のものを踏襲して行った。高体連の進行マニュアル通りに、ゲームや表彰式、会場アナウンスが行われていた。「競技運営」では、選手席(座席)の関係もあり、ピッチに入れる選手・スタッフの人数を花園本戦と同じレギュレーションにしたが、ADコントロールの趣旨を理解せずに、ピッチサイドやロッカールームに入るチームスタッフがいた。また、予選・決勝を通しベンチからの監督・コーチ陣の発言にはレフリーを揶揄するものも多く、ラグビー憲章の観点からも注意の喚起が必要である。

広報展開レポート

Concept & Mission

ラグビーの魅力を多くの人に伝えたい。

HRFU が「北海道のラグビーの日」に込めた願いである。

そのため広報展開は非常に重要である。

マスメディアや SNS に加え、チラシ配りやポスター貼りも欠かせない。



BL 東京 VS 三重H ポスター



BL 東京 VS 三重H チ・カ・ホ巨大広告

【マスメディア戦略】

東芝ブレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

今回はリーチ マイケル選手による計2回のプロモーション稼働が実現した。札幌ウイステリアホールでのトークライブや懇親パーティ以外にも・サッポロファクトリーと新千歳空港でもトークショーやサイン会、写真撮影会などのプロモーションを実施した。特に今回は札幌駅前通地下歩行空間チ・カ・ホの巨大バナーが、注目され話題となった。この巨大バナーはチ・カ・ホの壁面に2025年2月24日から5週間に渡り掲出。「リーチマイケル上陸」のデザインが認められ2025年7月3日(木)に札幌パークホテルで行われた第65回全北海道広告協会賞の「OOH(アウトオブホーム)部門」で優秀賞を受賞し、津軽敦志会長が表彰状と記念品を受け取った。

【テレビスポット告知】

1月21日から2月23日までSTVとHTBの2局使用でテレビスポットCM広告実施。期間中15秒CMを2局で46本投下した。

【新聞広告】

北海道新聞で2月に3回、3月に3回の計6回、朝刊の半5段カラー告知広告実施。

1月20日(月)～21日(火)

東芝ブレイブルーパス東京 事業運営部長 星野氏 全体統括 菊池氏とリーチマイケル選手が来札しプロモーションを実施

①北海道新聞取材

※記事は翌日の道新記事とWeb展開

②HTB北海道テレビ 21日放送分「イチモニ!」収録

③STV札幌テレビ「どさんこワイド」生出演

④サッポロファクトリーで元明治大学ラグビー部監督の丹羽氏とのトークショーとファンイベント実施 来場者は約400人

⑤21日(火)リーチマイケル選手が母校山の手高校凱旋・全校集会で挨拶
新聞・テレビ各社取材有り

⑥午後から新千歳空港でリーチマイケル トークショー実施。見物人は約150人

⑦札幌市 秋元克広市長を1月21日10時から表敬訪問



BL 東京 VS 三重 H チ・カ・ホ巨大広告

東芝ブレイブルーパス東京 対三重ホンダヒート

NTTジャパンラグビー リーグワン2024-25 DIVISION 1

3月30日(日)13:00
大和ハウス
プレミストドーム
(札幌ドーム)

PCコード 861-499



セブン-イレブンWEB・店頭先着先行

受付開始 1月11日(土)10:00~17日(金)23:59

〈WEB受付〉お申込み → [びあ セブン先行](#) [検索](#)

〈店頭受付〉店内マルチコピー機【チケット】⇒【チケットびあ】よりお求めいただけます。

※詳細は受付画面にてご確認ください。

BL 東京 VS 三重 H セブンイレブン告知

【訪問者】 東芝ブレイブルーパス東京

選手（キャプテン） リーチ マイケル 氏

事業運営部部长 星野 明宏氏

事業運営部シニアエキスパート 菊池 博氏

一般財団法人北海道ラグビーフットボール協会

会長 津軽 敦志

理事長 佐藤 幹夫

副理事長 福井 直士

理事 丹羽 政彦

※各プロモーションは在札の全新聞社とテレビ局にプレスリリースし、当日多くのメディアで賑わった。テレビと新聞への事前のプッシュが功を奏し当日以降、テレビや新聞、ネットでの露出拡大に繋がった。

④のサッポロファクトリーでのトークショーイベントは、平日にもかかわらずたくさんのラグビーファンで賑わいました。また、カンタベリーショップとのコラボ企画で、リーチマイケル背番号入り BL 東京レプリカジャージ購入者限定で、本人からのサインと写真撮影ができる特典を付けたところ大好評でした。

【東芝 BL 東京 元日本代表 望月さん A I R—G・FM 北海道出演】

3月31日に東芝 BL 東京の元日本代表の望月雄太氏が、試合 PR のため A I R—G・FM 北海道のラジオ番組にゲスト出演。

【札幌市スポーツ局様ご提供による屋外広告他各サイネージでも宣 PR】

1月スタートで各媒体での PR 展開を実施した。

・札幌駅前合同ビジョン及び札幌 PARCO ビジョンで静止画データを放送。

→30分に2回放送。

・すすきの LC 各ビルのビル内ビジョン（市内7か所）で静止画告知データ放送。

→1時間に3回。

・札幌・地下歩行空間の北大通と北3条広場のビジョンで静止画データ放送。

→1時間に12回放送×4枠実施

・大通証明サービスコーナービジョンで静止画告知データを掲出

・すすきの交差点のビジョン（サブロー）で15秒CM上映



早稲田大学 VS 慶應義塾大学 ポスター

太陽生命
WOMEN'S
SEVENS

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025
グラウンドファイナル札幌大会

8/17 9:00 KICK OFF

「応援があるから 挑戦できる」

2024 パリ五輪で9位、2025 ワールドシリーズで7位と女子セブンズ日本代表
サクセブズは進化を続ける。10年間その進化を支えてきたのが太陽生命ウ
イメンズセブンズシリーズだ。全国の強豪が集まるこの大会には、日本代表の
みならず世界の強豪国の代表選手たちも参加する。

大会詳細はこちらから

大会概要

大会レポート

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025 グラウンドファイナル
札幌大会 HRFU チラシ

・地下鉄東西線 サッポロスマイル市政 PR コナ-ヴァンにて静止画告知データ放送。

【セブンイレブン】

道内全店のマルチコピー機モニターでの広告展開実施 3月1日～31日

【チラシ配布展開】 札幌市内及び北広島市 江別市の小学生を対象にチラシの大量配布総枚数は
14万2千部で、各学校へ直送した。

早稲田大学 vs 慶應義塾大学

・ Ownメディア（Instagram、facebook、HRFU ホームページ）で告知を行った。道新に掲
載された「あんこプロジェクト」による 200 件を超える応募があり、外れたおよそ 150 名にも
ペア招待券をプレゼントした。

・ 札幌市中央区豊平区の小学生を中心にポスター・チラシ展開。

ポスターは B2 サイズを 400 枚。チラシや約 10 万枚印刷し各小学校に配布した。

・ 各プレスに事前 PR 実施。

・ Ownメディア（ホームページ・SNS）展開実施。



1922 年 第 1 回早慶戦（SNS 告知）

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025

グラウンドファイナル札幌大会

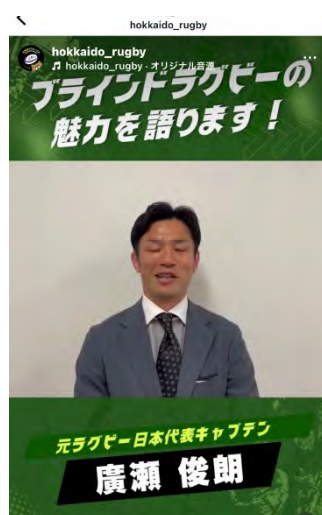
・ facebook、Instagram で事前 PR 実施

・ 各プレスにリリース配布。

・ Ownメディア（ホームページ・SNS）展開実施。



早稲田大学 VS 日本体育大学 ポスター



SNS での告知展開

【Instagram 戦略】

東芝ブレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

早稲田大学 vs 慶応義塾大学

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025 グランドファイナル札幌大会

早稲田大学 vs 日本体育大学

南北北海道高校大会決勝戦

SNS による告知展開

Instagram や Facebook による告知展開は、北海道ラグビーの日の情報拡散にとって非常に有効な手段であった。しかし、最近ではどの分野においても常套手段となっているため、量としては飽和状態である。今後は「ビギナーや単発層」をターゲットに、スポーツとしての面白さに加え、ラグビー特有のカルチャーを伝えることも重要だと考えている。

インスタグラム運用概要

投稿実績・リーチ・フォロワー推移まとめ

期間	投稿数	総閲覧数 (リーチ)	平均閲覧数	最大閲覧週	備考
3～5 月期 早慶戦	12 投稿	54,582 回	約 4,500 回	5/19 ～ 25 (15,107 回)	試合概要・大学紹介・選手紹介・著名人動画が高反応
7～9 月期 早稲田×日体大戦 セブンス	12 投稿	65,384 回	約 5,500 回	9/3 ～ 9/9 (17,345 回)	選手紹介・大学紹介・無料企画が高反応
年間合計 (2 期)	24 投稿	119,966 回	—	—	試合前 2 週間の投稿が最大の拡散を獲得



SNS での告知展開

投稿総閲覧数の拡大

本年度は ラグビーの歴史や戦史を紹介する投稿を展開し、競技文化への理解を深める発信が可能となった。大学ラグビーの伝統や過去の名勝負は保存率が高く、関心層の拡大につながった。また、地域協賛企業や地元の食・飲料を紹介する投稿も高い保存数・シェア数を獲得し、「北海道ラグビー×地域の魅力」を強く示す結果となった。歴史紹介と地域の魅力発信を両軸で行うことで、競技と地域産業を結びつける価値を生み出した。

フォロワー以外へのリーチ

本年度は、試合情報・学校紹介・選手紹介などを中心に、丁寧で質の高い発信を継続した結果、フォロワー以外からの閲覧が約半数を占め、広い層へのリーチが実現した。特に試合前 2 週間の投稿は閲覧が集中し、来場促進に大きく寄与した。また、地域の食や生産者の紹介、キッチンカー情報など協賛内容も合わせて発信することで、北海道ラグビーの魅力を支える周辺要素を自然に紹介する形となった。協賛投稿は主役ではないものの、地域性やイベントの幅を示す役割を果たし、全体として「競技の丁寧な情報発信＋地域の魅力紹介」という二軸の発信が確立された。

今後に向けた展望

本年度の発信は、試合情報や学校・選手紹介を中心に、丁寧でわかりやすい構成を継続したことで、フォロワー外からの閲覧が多く発生し、広い層への認知拡大が実現した。地域の食や生産者、キッチンカーなど協賛内容も組み込み、競技と地域の魅力を両軸で伝える発信が成立した。来年度にむけては、来年度は、関連企業との共同投稿や内容の充実を進め、より多くのユーザーにリーチが広がる発信体制の強化を検討している。

女子ラグビー普及

Concept & Mission

かつて、スポーツとしてのラグビーは「男のスポーツ」という形容で語られていた。

しかし、今は昔の話。時代は完全に変わった。

女子カテゴリーはラグビーという枠を超えスポーツの未来にとって大きな可能性をもっている。



BL 東京 VS 三重 H の前座試合

東芝ブレイブルーブ VS 北海道バーバリアンズディアナ



北日本交流戦の女子交流試合



北日本交流戦 チアリーディング

東芝ブレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

前座ゲームとして、東芝ブレイブルーブ対北海道バーバリアンズディアナ、東芝ブレイブルーブユースを行った。シーズン初めのこの時期にゲームができたことで、展望をもってシーズンインできたことが成果である。

中標津町、美幌町よりパフォーマンス団体 GARUCOLE を招聘。幼児から中学生までの女子120名が参加。300 名ほどの関係者もゲームを観戦したため集客にもつながった。また、ラグビーに関わることの少ない客層の観戦につなげることができた。

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025 グランドファイナル札幌大会

ボールパーソンとして高校女子選手がサポート。日本最高峰のゲームを間近で観戦することができ大きな刺激となった。

早稲田大学 vs 日本体育大学

前座ゲームとして、北海道女子セブンズフレンドリーマッチを開催。月寒ラグビー場でゲームを愉しみにしている選手が多いため今後も継続していきたい。

南北北海道高校大会決勝戦

前座ゲームとして、U18 女子セブンズラグビーフットボール大会北海道ブロック予選会を実施。決勝の前座ゲームとしては 3 年連続の実施になる。ドームのピッチでプレーできることに歓びを感じる選手も多い。また、このゲームを「引退試合」と位置付けている選手もいるため今後も継続していきたい。

北日本大学交流戦

女子交流試合では、帯広畜産大学 6 名、酪農学園大学 1 名の大学生チームと、社会人と学生の北海道バーバリアンズディアナ 7 名と小樽潮陵高校 2 名、札幌厚別高校 1 名の混合チームが対戦した。ディアナには日本代表が 2 名いて、大学生は入学からラグビーを始めた選手がほとんどで、力の差は大きかったものの、大学生たちの渾身の力と勇気のあるプレーにスタンドも大いに沸いた。

ハーフタイムには、北翔大学、北星学園大学のチアダンスに出演してもらって盛り上げてもらった。チアダンサーたちは自分たちの演舞が終わった後でも、熱心に観戦応援してくれた。

キッズ&ジュニア イベント

Concept & Mission

テストマッチや国際レベルが行われる試合会場に

ラグビーの未来を担う子供たちを招き、

ラグビー教室やミニラグビー交流試合を行い、子供たちの一生の思い出をつくる。



BL 東京 VS 三重 H 花道キッズ

東芝ブレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

【花道キッズ】

- ・全道のスクールから参加希望者を募集し83名が参加
- ・札幌圏の他、函館、小樽、帯広、遠軽からの参加もあり、春休み期間ということで、子供達は参加しやすい時期だった可能性がある
- ・JRL Oゲームの際には「花道キッズ」と「ノーサイドタイム」を期待している保護者も多い様子。一方、対戦カードに依存する傾向もあると思われる。やはりリーチが出る試合については、イベント参加者に関しても、直接的に集客につながるとあらためて感じられた。
- ・「ノーサイドタイム」に関しては、準備段階からいろいろ議論があったが、今回はファンクラブ及びグッズ購入が参加要件となり、これまでの課題となった煩雑感や参加要件の公平感といった観点では、運営に関する負担軽減を含め、改善につながったものとする。

早稲田大学 vs 慶応義塾大学

【前座交流戦】

- ・札幌RS、BB Jr、山の手RS、江別RS、遠軽RSが参加
- ・5スクールで4チームを編成し、中学生（U15）による交流戦を行った
- ・入場規制により前座観戦時にもチケットが必要としたが、大きな混乱もなく実施出来た。
- ・定期的に月寒グラウンドでのゲームが出来るのは大変貴重な機会。シーズンも始まったばかりだったが、レフリー委員会のご協力もあり、適当な強度で4本のゲームを実施出来たことに感謝したい。
- ・対象の選手をU15（中3、中2）に限定したが、U13（中1）の選手がゲームのサポート（BPなど）にあたってくれた。また、交流戦の次のデフラグビー体験会にU13メンバーが参加。普段体験したことがない、視覚状態でのプレーは貴重な体験だった模様で、雨と気温が低い中、高校生とともに、元気に体験会に取り組んでくれた。

【花道キッズ】

- ・全道のスクールから参加希望者（高学年）を募集し47名が参加
- ・気温も低く雨模様だったが、奇跡的に実施時点では雨が上がり、各スクールのチームスタイルで花道を飾ってくれた。



早稲田大学 VS 慶応義塾大学 前座交流



早稲田大学 VS 慶応義塾大学 花道キッズ



早稲田大学 VS 日本体育大学 体験会



早稲田大学 VS 日本体育大学 花道キッ

・ これまではメインスタンド下で待機した後、「花道」を作る流れだったが、今回はメインスタンドの動線上制約があったためグラウンドレベルでの動線（得点板付近で待機）とした。結果的にこの動線がスムーズに進行出来ると考える（ベンチ前の通過可否が課題）

・ 時間的な制約から選手と並んでの記念撮影が出来なかった。試合前の進行は流動的になるため、遅れた場合などの連絡調整が課題と考える。

早稲田大学 vs 日本体育大学

【体験会】

・ これまでスクールでの交流試合等を前座枠に充てていたが、時期的に中学生、小学生ともに実施が困難だったことから、「体験会」と位置づけ、スクール生以外も参加出来る形のイベントを企画。

・ 北日本大学交流戦での普及イベントの試行としての位置づけとして実施。

・ 対象を低学年から高学年までとし、タッチフットなど、「グラウンドで遊ぶこと」とし、主に札幌RS、山の手RS、江別RSのコーチにご協力いただき実施した。

・ 結果的に一般の参加は無かったが、参加したスクール生は主にタッチフットを楽しみ、低学年の子は1名、コーチとマンツーマンで練習をこなしてくれた。

・ 前座枠については、折角の機会なので、交流試合などを実施し、中学生や小学生のゲームを一般の方が観る機会を作りたいところだが、この観点では、あまり効果が望めないことや、関係者の負担感（イベント運営や拘束時間など）が大きく、メインゲームへの集客にあまり寄与しない可能性がある。

・ 一般客が参加可能な体験型のイベントを検討していきたい。

【花道キッズ】

・ 全道のスクールから参加希望者（高学年）を募集し33名が参加。

・ 日体大が前日に小樽宿泊だったことから、小樽RSからの参加者も多く、場内アナウンスでエピソード紹介など、話題作りに貢献。

・ メインスタンド下の動線に制約は無かったが、春の早慶戦と同じ動線で実施した。今回は人数的にあまり多くはなかったが、やはりこの流れが集合時の混雑も避けられるため、スムーズに実施出来るものと思われる。

（ただし、芝席が満員になるような場合は別途要検討）



北日本交流戦 体験会

北日本大学交流戦

子どもラグビー体験会ではスクール生徒と当日来場した小中学生 20 名を対象に、酪農学園大学はじめとする複数の大学生が、導入から発展のコースでプログラムを組んで体験会を実施した。

ラグビー体験コーナー

Concept & Mission

初めて、楕円球に触れたり、相手にブチ当たったり、
ラインアウトで持ち上げられた時の驚きや感動は言葉では表現できない。
この驚きと感動を体験メニュー化し、ラグビーの普及とファンの獲得につなげる。



東芝ブレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

東芝ブレイブルーパス東京と三重ホンダヒートのキックオフを心待ちにしている来場者に対し、ラグビー体験会を行った。暖かい季節であれば大和ハウスプレミストドーム屋外テラスの広い会場で実施できたが、3月末の寒い季節であったためドーム内の北ゲート付近廊下での実施となった。この場所は緊急時の避難経路となっているため、ラグビー体験コーナーとしての実施スペースが限られ、ラインアウト体験のみを行った。札幌支部社会人クラブ委員会のメンバーは、このラグビー体験会を何度も経験しているため、明るく元気な声が遠くまで届き、子ども達だけではなく、多くの大人にも興味を持って参加して頂いた。車いすラグビー日本代表で金メダリストの池崎大輔さんもこのコーナーに参加して頂き、会場は大いに盛り上がった。しかし、北ゲート付近の廊下はメインスタンド側であるため、バックスタンド側の来場者にはラグビー体験コーナーの存在に気付いてもらえない部分があった。そのため、今後もこの場所でラグビー体験会を実施するのであれば、来場者全体への周知方法の工夫が必要であると感じた。また、リーグワンや日本代表の試合には、ラグビースクールに所属していない子ども達もたくさん来ているので、道内ラグビースクールのチラシをテーブルに置いて持ち帰ってもらったり、チラシやポスターを壁に掲示したりして道内ラグビースクールの存在を広くアピールする絶好の機会だと感じた。今後もこのような体験会を通して一人でも多くのラグビー選手、ラグビーファンが増えるよう活動内容を工夫して継続していきたい。

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025 グランドファイナル札幌大会

当初、屋外テラスでラグビー体験コーナーを実施する予定であったが、当日の天候は大雨となり、急遽、1階北ゲート付近廊下での実施となった。この日は無料入場であったため、一般来場者の出入口は2階テラスゲートとなり、1階北ゲート付近廊下でのラグビー体験会の実施に気付く来場者は少なく、ラグビー体験コーナーの参加者は極少数という結果になってしまった。

大和ハウスプレミストドーム内は、避難経路確保など様々な制約があるため、来場者の出入口が2階テラスゲートとなった場合、ラグビー体験コーナーの実施場所として適したスペースが屋内にはまったく無いという課題が露呈された形となってしまった。



BL 東京 VS 三重 H 車椅子ラグビー池崎選手がラインアウトを体験



太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025
グランドファイナル札幌大会

未来へのパス project

Concept & Mission

ラグビーでは「大切だと感じたことを、仲間に伝え広めるスポーツである。」

ラグビーだけではなく、有形無形の感動を未来にむかって伝え広めるてんこ盛りのプロジェクト。

それが、、、

未来へのパス
Project

である。



【道産食材ビュッフェサービス付きプレミアムシート】

東芝プレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

会場：地下1階ラウンジ 時間：11:00-14:00(3h)

当日は、地元道企業や生産者から提供された北海道産食材を活用したオリジナルメニューを提供した。いちえ北海道がケータリングを担当し、温菜と冷菜を組み合わせたオリジナルビュッフェをラウンジ内で展開した。道産食材の魅力を引き立てる構成とし、来場者が北海道の食文化とラグビー観戦を同時に楽しめる空間を創出した。



BL 東京 VS 三重 H ビュッフェのメニュー

【北海道ラグビーの日の夜 リーチマイケル交流会】

東芝プレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

1. イベント概要

2024年12月8日(日)17:30-21:00

会場ウイステリア南1条(札幌市中央区南1条西14丁目 291-81)

[前半]: ①北海道ラグビーフットボールアンバサダートークショー

参加者 リーチ マイケル選手、伊藤鐘平選手、ヴェア・タモエファラウ選手(山の手高校出身)
藤村忠寿氏(水曜どうでしょうチーフディレクター)

②ゲスト選手スペシャルグッズのオークション

[後半]: 交流会(ファンミーティング)

本イベントは、3か月後に控える3月30日の大和ハウス プレミストドームでの試合に向け、選手とファンが直接交流する機会を設けることで、北海道でのラグビー文化をより広く根付かせることを目的として開催したものである。

前半は北海道ラグビーフットボールアンバサダーによるトークショーを実施した。山の手高校出身のリーチマイケル選手、伊藤鐘平選手、ヴェア・タモエファラウ選手に加え、北海道大学卒業でラグビー経験者の藤村氏が登壇し、ラグビーの魅力と北海道ラグビーの未来を語り合う場として企画。支援者、協賛企業、関係者が集い、競技と地域の新たなつながりを生み出すことを目的とした。

加えて、ゲスト選手が持参したスペシャルグッズを用いたチャリティオークションを実施し、会場は大きく盛り上がった。

後半は場所を移して、食事を楽しみながらのファンミーティングを実施し、選手との交流がより身近に感じられる時間となった。写真撮影や会話の機会が設けられ、参加者は選手の人柄や思いに触れることで、3月30日の試合へ向けた応援意識が高まる結果となった。



北海道ラグビーの日の夜 マイケルトークショー



あんこプロジェクトのコンセプト

【未来パス協賛 ビアガーデン&協賛品配布】

太陽生命ウィメンズセブンスシリーズ 2025 グランドファイナル札幌大会

会場：大和ハウス プレミストーム_屋外テラス 時間：10:00-17:30

試合をより多くの方々に知ってもらう機会を創出するため、大和ハウス プレミストーム屋外テラスエリアを無料開放し、ビアガーデンを実施した。来場者が試合前から試合後まで楽しめる空間づくりを目的に、複数のキッチンカーを招致し、飲食を通じた体験価値の向上を図った。

その中で、「未来へのパスプロジェクト」の取り組みとして、北海道養豚生産協会とのコラボレーションによるキッチンカー出展を行い、北海道産豚肉を使用したラグビー応援オリジナルメニューを提供した。地域食材の魅力を来場者に直接届ける場となり、北海道ラグビーと地域産業を結びつける重要な発信機会となった。

北海道養豚協会とのコラボレーションにより、ブランド豚「樽前湧水豚」を使用した、1日限定のラグビー応援特別メニューを提供

HRFU 協賛コーナーを設置

試合会場内に HRFU 協賛コーナー を設置し、地域企業との連携による多様な発信を行った。

3月の東芝戦では、積丹スピリットおよび上川大雪による振る舞い酒を実施し、来場者に北海道産クラフトアルコールの魅力を体験してもらう場を創出した。また、月寒あんぱんとサザエ食品による「あんこプロジェクト」も参加し、北海道小豆がアスリートのコンディショニング食材として注目されている点を踏まえたコラボ企画を展開した。栄養価を備えた和のスイーツとして、競技と食文化の双方を伝える内容となった。

【あんこプロジェクト】

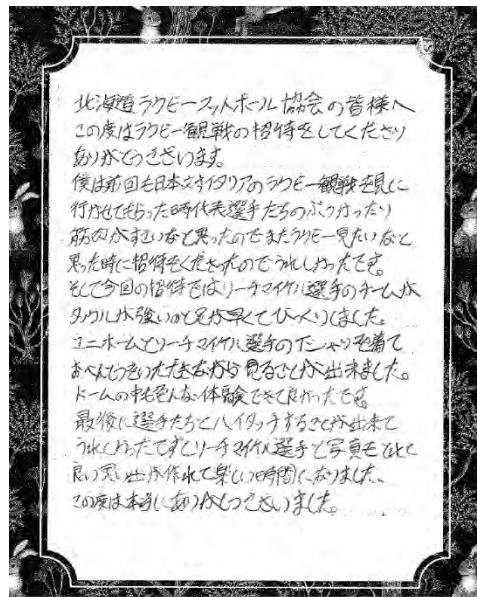
今回も各試合において、北海道の老舗菓子店サザエ食品と月寒あんぱん様のご協力を得て、北海道産小豆を使った栄養豊富なあんこ商品の無料配布を行った。特にアスリート食としての小豆の有効性について周知し、健康的なエネルギー補給源としてのあんこの魅力を発信した。配布ブースでは、来場者に試食いただきながら、スポーツにおける小豆の活用方法を紹介するリーフレットを配布した。

【児童養護施設支援プロジェクト(リーチ マイケルプロジェクト)】

東芝プレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート

3/30 JRLO (ジャパンラグビーリーグワン)開催「東芝プレイブルーパス東京 VS 三重ホンダヒート」戦には、羊ヶ丘養護園3人、柏葉荘6人、興正学園2人、支援をしてくれています「北灯の会」の須田会長と引率者を入れた17名が参加してくれた。試合後の選手との交流イベント「ノーサイドファミリーロード」にも参加してくれた。支援プロジェクト名のリーチマイケル選手とも会うことが出来、子供たちは興奮した表情で一緒に写真撮影をし、施設に帰ったらとても興奮して職員の皆さんに報告をしたとのこと。

次年度以降も、子供たちへのラグビーの魅力や文化を伝えて、将来プレーヤーになってくれたらと思うとともに、児童養護施設を支援する団体とも協調をしながら未来ある子供たちを支援して、未来が子供たちにとって明るいものになってもらえるように就職や進学支援も出来ればと考えている。



興正学園様からのお手紙



羊ヶ丘養護園様からのお手紙



柏葉荘様からのお手紙



ブラインドラグビー体験会
声がけによる意思疎通がパスの基本である。

【ブラインドラグビー】

早稲田大学 vs 慶応義塾大学

ブラインドラグビー協会理事の谷口真由美氏より、札幌での体験イベント開催のご提案を頂いた。形式的な「障がい者スポーツの紹介」という枠組みを超え、健常者にとって驚きと発見と学びに満ちた体験になればという方針のもと、早慶戦の前座として体験イベントを行うことにした。

参加者が半盲を疑似体験するために、視野を極端に絞ったゴーグルを装着しプレーを行った。一つのパスを渡すためには、コミュニケーションが重要であることは通常のラグビーでも同じであるが、ブラインドラグビーにおいては特に声掛けによる意思疎通が重要となる。基本練習が終わった後は、来札したブラインドラグビー日本代表選手やレフリーが、参加者とともにゲームを行った。

体験会に参加したラグビー部在籍の高校生から「声がけの重要性を再認識するとともに、この経験を日々の自分のプレーにも生かしたい」との感想が寄せられた。

当日は谷口真由美氏がメガフォン片手に自ら進行役をつとめ、イベントを円滑にリードして頂いた。

【車いすラグビー】

東芝ブレイブルーパス東京 vs 三重ホンダヒート



BL 東京 VS 三重 H 車椅子ラグビー体験会

大和ハウス プレミストドームで車いすラグビー体験会が行われた。旭川でバリアフリーのスポーツ文化活動をサポートしているカムイ大雪バリアフリー研究所のメンバーが JRLO の試合で車いすラグビー体験会の実施を企画。当日は、羽幌高校と芦別高校のラグビー部員もお手伝いに参加してくれた。高校ラグビーも始めて車いすラグビーに挑戦した。2024パリ・パラリンピックで金メダルを獲得した車いすラグビー日本代表のエース池崎大輔選手も応援にかけつけてくれて、体験会場は多くの人で賑わった。